

令和6年1月19日
山梨県景観セミナー R5
於：風土記の丘研修センター

第2部 - 地域/観光地の魅力向上 景観向上の方法論



国立研究開発法人土木研究所
寒地土木研究所 地域景観チーム
笠間聡

1

第1部 10:00-12:00
- 景観と地域の魅力
景観とは何か？
景観の理解と取り組みの要点

景観とは何か？の正しい理解が
議論の出発点

第2部 13:30-16:30
- 地域/観光地の魅力向上
具体の都市や空間の
景観向上の方法論

「良い景観」の「なぜ？」を知る

観光地の屋外公共空間

2

- ・ 観光地の屋外空間のうち、「パブリック」にアクセス可能な空間
 - 街路、広場、観光施設の屋外空間（民有空間）、、、
 - 観光地の魅力への影響大



Photo: 北海道/上川町 層雲峡

観光地の屋外公共空間

3

- ・ 観光地の屋外空間のうち、「パブリック」にアクセス可能な空間
 - 街路、広場、観光施設の屋外空間（民有空間）、、、
 - 観光地の魅力への影響大

「観光地の魅力向上」を実現する
「屋外公共空間のデザイン」とは？

：

「観光地の魅力」と
「屋外公共空間のデザイン」の関係
に関する研究



Photo: 北海道/上川町 層雲峡

- ・「なぜ？」がわかるか？
- ・どうすれば、観光地(まち)の魅力は高まるのか？
- ・魅力的な観光地と、そうでない観光地の差はどこにある？
- ・魅力的な観光地を真似るにも、どこを真似るのが効果的なのか？



- ・「なぜ？」がわかるか？
- ・どうすれば、観光地(まち)の魅力は高まるのか？
- ・魅力的な観光地と、そうでない観光地の差はどこにある？
- ・魅力的な観光地を真似るにも、どこを真似るのが効果的なのか？



黒川温泉(熊本県)

層雲峡・キャニオンモール

- ・「なぜ？」がわかるか？



眺望・自然景観

建築等

建築等外構

道路

広場・公園

狭義の「まちなみ」 = 主に民間

インフラ 公共施設 = 主に行政

多様な要素・関係者

要) 戦略・合意形成・効率化



- ・寒冷地における良好なインフラの維持整備等に必要となる土木技術の研究・開発
- ・技術指導等による研究成果の普及を通じ、良質な社会資本の効率的な整備および北海道開発の推進に資することを目的

地域景観チーム since 2006

- ・良質な社会資本の効率的な整備を通じた景観および地域の魅力の向上



観光地



道の駅



電線電柱

1980

1990

2000

2010



小学・中学・高校

茨城県つくば市/土浦市

大学・大学院

TOKYO

就職①

アブル総合計画事務所
TOKYO

旅
アルバイト

転職

CERI
北海道



脱こげ茶のススメ





本当に「こげ茶」で良いのか？



R5黒松内新道 (黒松内町)
溶融垂鉛めっき仕上げ



フォトモンタージュ
こげ茶塗装のイメージ

景観3色

国土交通省「美しい国づくり政策大綱」(2003.7)

…「景観に配慮した防護柵の整備ガイドライン」(2004.3)



景観に配慮する際の防護柵の基本となる色彩が提示される



ダークブラウン(こげ茶) 10YR2.0/1.0
ダークグレー(濃灰色) 10YR3.0/0.2
グレーベージュ 10YR6.0/1.0

景観3色

- 資材メーカー等のカタログ品にも広く採用、普及が進展
- それまでばらばらだった道路附属物等の色彩について統一が図られ、日本の道路景観は改善の一步を踏み出した

景観4色

…「景観に配慮した道路附属物等ガイドライン」(2017.9)

↑「景観に配慮した防護柵の整備ガイドライン」(2004.3)

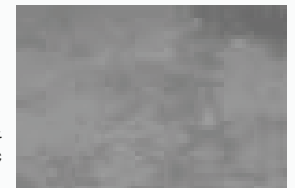


ダークブラウン(こげ茶) 10YR2.0/1.0
ダークグレー(濃灰色) 10YR3.0/0.2
グレーベージュ 10YR6.0/1.0
オフグレー(明灰色) 5Y7.0/0.5

全国の道路附属物の現状(含む、北海道)

… こげ茶系(ダークブラウン)と 亜鉛メッキ が大半

亜鉛メッキ
のイメージ



「景観に配慮した防護柵の整備ガイドライン」(2004.3)

16

色彩はそれぞれの地域の特性に応じて検討すべきであるが、本ガイドラインでは一般的な我が国の自然や風土、建築物等との融和性の観点から、景観に配慮する際の防護柵の基本となる色彩を提示した。

道路附属物等の色彩については、景観3色(4色)を踏まえつつも地域の特性に応じた色彩を適切に選定する必要がある

Hokkaido

- ・積雪寒冷地
- ・地形・土地利用上の特異性
(同じ積雪寒冷地である東北・北陸信越なども大きく異なる)

こげ茶色/ダークブラウン → 本来は国立公園等の森の中を想定して選定された色 17



北海道の道路環境の特性

18

(1) 広大で開放的な景観



長沼町 R274

ゆるやかな地形、規模の大きな土地利用、広大な農地や牧草地(生産空間)、直線的な道路、、、**スカイラインが低い。背の高い道路附属物は空が背景となりやすい。**



19

(2) 冬期の雪景色

20



黒松内町 R5黒松内新道

銀世界。地面も山も、一面が明るい白が主体の景色。モノトーンの風景。

... 比較的温暖な札幌近郊でも11月下旬～4月上旬の4ヶ月超。



寒地土木研究所 地域景観チーム <https://scenic.ceri.go.jp>

21



旭川市 北彩都地区



寒地土木研究所 地域景観チーム <https://scenic.ceri.go.jp>

(3) 冬期の気候に対応するための多数の道路附属物

22



寒地土木研究所 地域景観チーム <https://scenic.ceri.go.jp>

(4) 多様な構造物の劣化要因

23



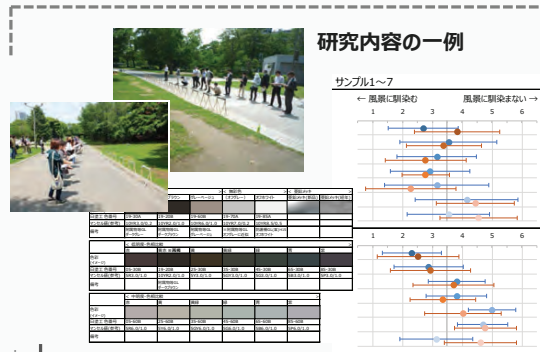
寒地土木研究所 地域景観チーム <https://scenic.ceri.go.jp>

平成26年度から、北海道における道路附属物等の色彩に関する研究を進め、
「北海道の色彩ポイントブック」
北海道および積雪寒冷地の道路施設の色彩検討の手引きを取りまとめ。



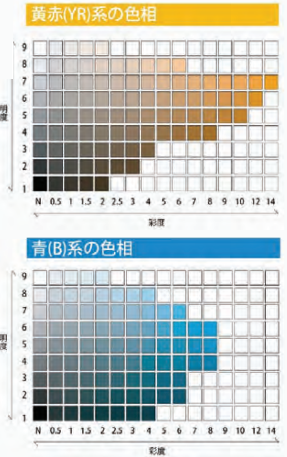
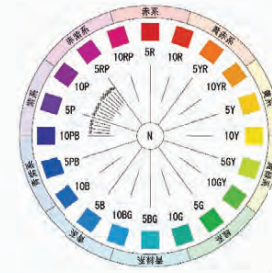
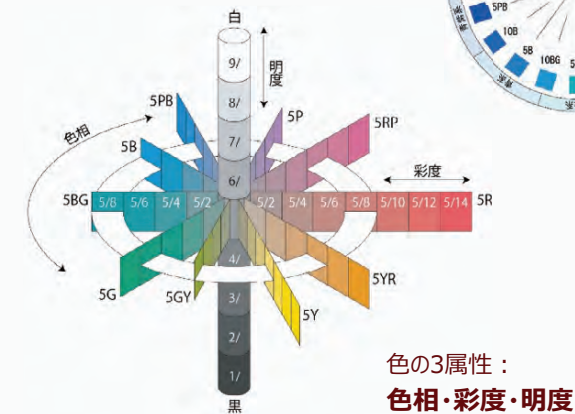
2018.6

- 研究成果を踏まえ、慣例となっているダークブラウンに優先して、ダークグレーあるいは垂鉛メッキなどの無彩色の採用についても検討するよう促す内容。



マンセル表色系

JISにも規定された色の表し方の世界標準。



北海道の環境に融和する色彩の方向性

(1) 彩度

- 背景となる色彩よりも、彩度を抑えた色彩が基本。
- 冬期の雪景色は、彩度ゼロ。
→ 冬期(積雪期)の景観を考慮すれば、無彩色が好ましい。



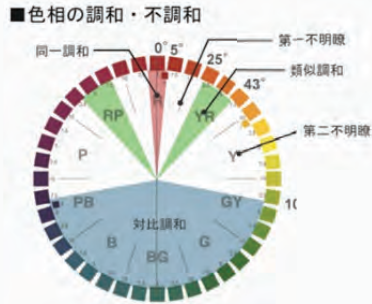
(2) 明度

- 背景となる色彩と同程度の明度が基本。
- 本州の里山や自然地域に多くみられるような樹林地 → 暗めの色彩
- 空や遠くの山並みを遠望するような環境 → 明るめの色彩
- 冬期の雪景色を背景とする場合 → 明るめの色彩
→ 北海道に特徴的なスカイラインの低い景観や、冬期の雪景色を考慮すれば、明るめの色彩が好ましい。



(3) 色相

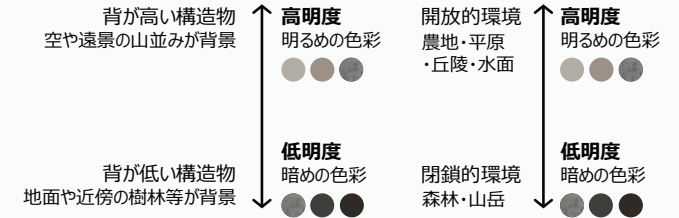
- ・「同一調和」「類似調和」と「対比調和」
- ・ 溶け込んで見えることを期待するのであれば、背景と同系統の色相。



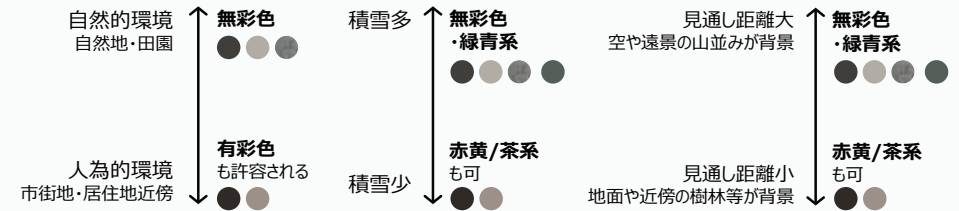
→ 青系？

空は青系。
遠望される山並みも遠くなるに従って、緑から青に遷移。
空を移す水面や、雪面も青系。

1. 明度の選び方



2. 彩度および色相の選び方



条件に適合する色彩の候補

背景となる色彩よりも彩度↓ + 冬は雪景色で彩度ゼロ

(1) 無彩色

背景となる色彩に合わせた明度

暗い環境では暗めのグレー、明るい環境では明るめのグレー

1. ダークグレー (暗めのグレー、景観4色/3色) 10YR3/0.2



R453 支笏湖畔 (ガードパイプ)



R230 定山溪 (照明柱)

暗い環境では暗めのグレー、明るい環境では明るめのグレー

2. 亜鉛メッキ (明るめのグレー) or オフグレー 5Y7/0.5

※「景観に配慮した道路附属物等ガイドライン」(2017.10)の追加色



道東自動車道



防雪柵・矢羽根

(2) 緑～青系の<彩度を抑えた>有彩色

無彩色以外を採用したい場合、暖色系(茶系)に代わる選択肢。

例：
旭川北彩都
(永隆橋通)

青緑みのグレー
10BG5/2

無彩色の景色に
照明柱の
わずかな色味が
彩りを与えている。



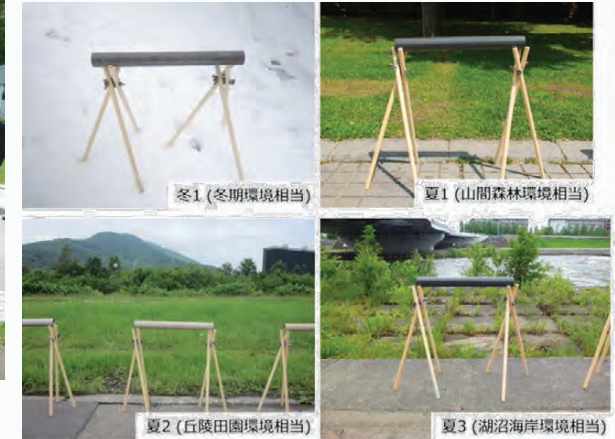
緑～青系の<彩度を抑えた>有彩色

無彩色以外を採用したい場合、暖色系(茶系)に代わる選択肢。

どの色が北海道の環境に馴染むか・・・



寒地土木研究所 被験者評価実験
H28～H29



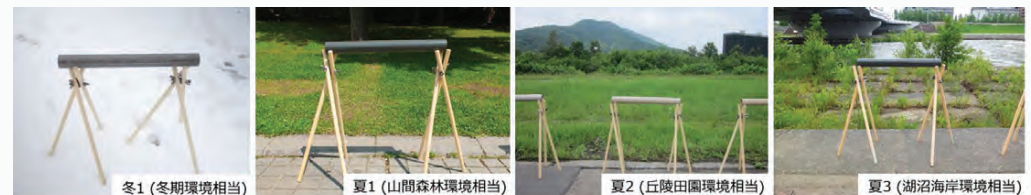
	< 景観3色 >			< 無彩色 >		< 亜鉛メッキ >	
	ダークグレー	ダークブラウン	グレーベージュ	(オフグレー)	オフホワイト	亜鉛メッキ(新品)	亜鉛メッキ(経年)
色彩 (イメージ)							
日塗工 色番号	19-30A	19-20B	19-60B	19-70A	19-85A		
マンセル値(参考)	10YR3.0/0.2	10YR2.0/1.0	10YR6.0/1.0	10YR7.0/0.2	10YR8.5/0.5		
備考	附属物等GL ダークグレー	附属物等GL ダークブラウン	附属物等GL グレーベージュ	※附属物等GL オフグレーに近似	防護柵GL(案)H15 オフホワイト		

	< 低明度・色相比較 >						
	赤	黄赤 ※再掲	黄	黄緑	緑	青	紫
色彩 (イメージ)							
日塗工 色番号	05-30B	19-20B	25-30B	35-30B	45-30B	65-30B	85-30B
マンセル値(参考)	5R3.0/1.0	10YR2.0/1.0	5Y3.0/1.0	5GY3.0/1.0	5G3.0/1.0	5B3.0/1.0	5P3.0/1.0
備考		附属物等GL ダークブラウン					

	< 中明度・色相比較 >					
	赤	黄	黄緑	緑	青	紫
色彩 (イメージ)						
日塗工 色番号	05-60B	25-60B	35-60B	45-60B	65-60B	85-60B
マンセル値(参考)	5R6.0/1.0	5Y6.0/1.0	5GY6.0/1.0	5G6.0/1.0	5B6.0/1.0	5P6.0/1.0
備考						

寒地土木研究所 被験者評価実験
H28～H29

想定環境 (実施場所)	略称	被験者	
		土木技術者	一般
冬期 / 自然地域一般 (札幌市/中島公園内)	冬1	14名 学識2・寒地5・コンサル7	18名 20～48歳、男8・女10、※道外2
山間・森林 (札幌市/中島公園内) *冬1と同じ	夏1		31名 19～69歳、男15・女16、※道外2
丘陵・田園 (札幌市/豊平川河川敷①)	夏2	16名 学識2・寒地7・コンサル7	
湖沼・海岸 (札幌市/豊平川河川敷②)	夏3		



サンプル1~7

冬1 冬期 ← 風景に馴染む 風景に馴染まない → 1 2 3 4 5 6

土木技術者...
ダークグレー、オフグレー

一般被験者...
オフホワイト、グレーベージュ

亜鉛メッキの評価差

- 1 ダークグレー
- 2 ダークブラウン
- 3 グレーベージュ
- 4 オフグレー近似色
- 5 オフホワイト
- 6 亜鉛メッキ(新品)
- 7 亜鉛メッキ(経年)

夏1 山間・森林 1 2 3 4 5 6

ともにダークグレー

評価差

- 1 ダークグレー 10YR3.0/0.2
- 2 ダークブラウン 10YR2.0/1.0
- 3 グレーベージュ 10YR6.0/1.0
- 4 オフグレー近似色 10YR7.0/0.2
- 5 オフホワイト 10YR8.5/0.5
- 6 亜鉛メッキ(新品)
- 7 亜鉛メッキ(経年)

サンプル1~7

夏2 田園・丘陵 ← 風景に馴染む 風景に馴染まない → 1 2 3 4 5 6

冬1(土木技術者)
夏1(双方)同様、
ダークグレーが1位

亜鉛メッキ2位

- 1 ダークグレー
- 2 ダークブラウン
- 3 グレーベージュ
- 4 オフグレー近似色
- 5 オフホワイト
- 6 亜鉛メッキ(新品)
- 7 亜鉛メッキ(経年)

- 1 ダークグレー 10YR3.0/0.2
- 2 ダークブラウン 10YR2.0/1.0
- 3 グレーベージュ 10YR6.0/1.0
- 4 オフグレー近似色 10YR7.0/0.2
- 5 オフホワイト 10YR8.5/0.5
- 6 亜鉛メッキ(新品)
- 7 亜鉛メッキ(経年)

夏3 湖沼・海岸 1 2 3 4 5 6

- 1 ダークグレー 10YR3.0/0.2
- 2 ダークブラウン 10YR2.0/1.0
- 3 グレーベージュ 10YR6.0/1.0
- 4 オフグレー近似色 10YR7.0/0.2
- 5 オフホワイト 10YR8.5/0.5
- 6 亜鉛メッキ(新品)
- 7 亜鉛メッキ(経年)

サンプル8~14

冬1 冬期 ← 風景に馴染む 風景に馴染まない → 1 2 3 4 5 6

土木技術者/一般
被験者とも
黄緑系(~緑系)
の評価高い

土木技術者では
ダークグレーの評価に
比肩

- 凡例: 土木技術者
- 一般被験者

- 8 赤 5R3.0/1.0
- 9 黄赤 10YR
- 10 黄 5Y3.0/1.0
- 11 黄緑 5GY3
- 12 緑 5G3.0/1.0
- 13 青 5B3.0/1.0
- 14 紫 5P3.0/1.0

夏1 山間・森林 1 2 3 4 5 6

- 8 赤 5R3.0/1.0
- 9 黄赤 10YR2.0/1.0
- 10 黄 5Y3.0/1.0
- 11 黄緑 5GY3.0/1.0
- 12 緑 5G3.0/1.0
- 13 青 5B3.0/1.0
- 14 紫 5P3.0/1.0

サンプル8~14

夏2 田園・丘陵 ← 風景に馴染む 風景に馴染まない → 1 2 3 4 5 6

同様に黄緑系の
評価高い

- 凡例: 土木技術者
- 一般被験者

- 8 赤 5R3.0/1.0
- 9 黄赤 10YR
- 10 黄 5Y3.0/1.0
- 11 黄緑 5GY3
- 12 緑 5G3.0/1.0
- 13 青 5B3.0/1.0
- 14 紫 5P3.0/1.0

夏3 湖沼・海岸 1 2 3 4 5 6

- 8 赤 5R3.0/1.0
- 9 黄赤 10YR2.0/1.0
- 10 黄 5Y3.0/1.0
- 11 黄緑 5GY3.0/1.0
- 12 緑 5G3.0/1.0
- 13 青 5B3.0/1.0
- 14 紫 5P3.0/1.0

1. 暗い黄緑みのグレー 5GY3/1

40



愛別町；道道140号の照明柱

2. 青緑みのグレー 5BG5/1

41



旭川市；北彩都地区 クリスタル橋（昭神通）歩道用照明柱・標識柱
※先の永隆橋通の「青緑みのグレー（10BG5/2）」よりも彩度が抑えられている。高欄は暗めの5B3/1。

3. 緑みのグレー 5G4/0.8程度

42



札幌市常磐；R453 橋梁用防護柵

目次

01	目的と活用方法	1
02	色彩の基礎知識	2
03	北海道および積雪寒冷地の道路環境と色彩	4
04	道路施設の景観の配慮事項	6
05	道路施設の色彩の配慮事項	8
06	北海道における道路附属物等の色彩（推奨色）	11
付録	イロイロ・コラム	18

道路附属物等の色彩の候補色と選別

■ タークグレー

10YR3/0.2（2004年ガイドライン 黒緑3色 / 2017年ガイドライン 黒緑4色）
暗めのグレーです。ごくわずかに茶色みを持っていますが、通常は無彩色として扱います。2004年発行の「景観に配慮した防凍断雪の設備ガイドライン（2004年ガイドライン）」以降、各メーカーの製造する製品において広く標準色として扱われているため、実測のしやすい色です。

無彩色は、多くの自然環境に馴染みます。北海道の環境（p4）を考慮すると、従来の黒緑3色の中では最も多く利用される色と推定されます。

ただし、開放的な明るい環境においては、暗めの色彩が視覚の存在感を高め、視覚の障害となる場合も考えられます。そのような場合にはより明るい連綿メツ仕上げや、オフグレー、緑系のグレーなどが検討されても良いかもしれません。

分類： 暗め、無彩色



■ オフグレー

5Y7/0.8（2017年ガイドライン 黒緑4色）
無彩色に近い、若干黄緑色みを持ったグレーです。全編ガイドライン（※1p1）の黒緑4色の中では最も明るい色彩で、明るく清潔によく調和すると考えられますが、暗めから開けすぎないため、視認性は十分ではありません。

オフグレーは、明るい黄緑色のグレーであり、黄緑色の色彩が飽和した北海道の環境に本当に馴染むかどうか、実際の採用にあたってはいま一度の検討が必要と考えられます。黄緑色の色彩が気になる場合には、連綿メツ仕上げや、緑系のグレーが検討されても良いかもしれません。

分類： 明るめ、ほぼ無彩色やや黄緑色（緑色系）

■ 亜鉛メツ仕上げ

色彩は無彩色のグレーです。設置直後は、明るく金属光沢があるキラキラと目立つ色ですが、だんだんと光沢は失われ、静かな色に変っていきます。

タークグレーよりも明るめの無彩色という点で、北海道の開放的な環境によく合う可能性があります。耐久性或経年経理コストにも優れた仕上げです。

ただし、ラフな質感が考慮される場合には建設仕上げとし、同じ明るめの色彩としてオフグレーやオフグレー、緑系のグレーなどが検討されても良いかもしれません。

分類： 中明る、無彩色



■ ダークブラウン

10YR2/1（2004年ガイドライン 黒緑3色 / 2017年ガイドライン 黒緑4色）
こげ茶と形容される色彩のひとつです。こげ茶系の色彩は、2004年の当初ガイドライン（※1p1）以前から全編に景観色・環境色として広く採用されてきたこともあり、多くの設置事例があります。

高い緑系の有彩色で、北海道の青い(青空、雪景色、遠景の山並みなど)には適合しない可能性があります。また、黒緑3色(4色)の中で最も低い色彩であり、大気汚染等の構造物に採用すると違和感を感じさせる可能性があります。

ただし、建物や道路の形状や、地面や道路の材質などを背景として見られる場合など、比較的暗い緑系構造物では採用の可能性もあります。

なお、同じ「こげ茶」の中にも複数の色彩があることに注意する必要があります。2004年ガイドライン(第1版)のダークブラウンは彩度をかなり抑えた茶系より濃いですが、既存のものには「青緑の濃いこげ茶」や「茶系に白っぽい茶」など多数のこげ茶が存在しています。ダークブラウンを採用する際には、マンセル色度で実際の色彩を確認する必要があります。金属製ガイドライン(第1版)のダークブラウン(10YR2/1)以外は、さらに赤みが強く、北海道の環境においては特に自注での確認が必要です。



分類：暗茶、有彩色・緑色系

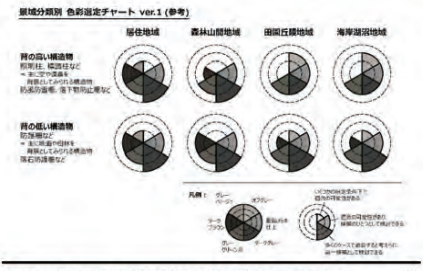
グレーベージュ

10YR6/1(2004年ガイドライン 黒緑3色 / 2017年ガイドライン 黒緑4色)

2004年の当初ガイドラインで制定された黒緑3色のうちのひとつですが、国内での設置事例は多くありません。

緑系の有彩色であり、茶系よりの北海道の環境には適合しない可能性もありますが、市街地以外では実装が少なく、知覚も十分ではありません。

分類：暗茶、有彩色・緑色系



緑系のグレー(グレーグリーン)

原則1~4中程度のごくくく色味をおさえた緑系のグレーが、北海道の環境にはよく適合する可能性があります。黒緑3色のダークグレーを少し明るく、緑系に寄せた色に近づけます。このような色彩は、優れた景観的配慮がけられた北海道内の事例で、複数の採用実績があります。

採用実例は十分ではないため、慎重な検討が必要ですが、一段上の鮮やかな色味を目的とするのであれば緑系のひとつとして採用を検討してみてください。

分類：中程度、ほぼ無彩色~低彩度有彩色・やや暗み(緑色系)



事例1：支庁事務所立川南側沿道
■ 黒緑グリーン SG4(0.5~1.0)
有隣街による検討委員会を経て、支庁関係機関(主に)から景観の点から、緑系のグレーが採用されています(2005年頃)。現場での色彩確認が行われた場所の右側から「黒緑グリーン」と呼ばれています。同系列では、同系のやや暗い色として「黒緑グリーン(SG2(0.5))」も選ばれています。

事例2：旭川市北郊部旭川 旭川駅前(旭川駅) 旭川駅
■ 青緑みのグレー SG3(1)
こげ茶に近い青緑みがかった暗緑のグレーです。風景で眺めると青緑となる山や空に近づき、非常にさわやかな印象の低い色に見えます。しかし光の条件によっては、低いグレーに見えることもあり、この点については検証を継続中です。なお、景観には低い青みのグレーであるSG3(1)が採用されています。こちらも同様に調整の良い色と見られます。

事例3：道道140号(旭川市山手線) 旭川市東町地区
■ 暗い黄緑みのグレー SG3(1)
わずかに黄緑みがかった暗緑のグレーです。旭川市北郊部の旭川駅前と同様に旭川市東町地区にも採用されています。北海道の山並みの環境によく調和した色彩に感じられます。継続ですが、事例4と同じ色彩です。

事例4：寒地土木研究所 建築事務所
■ 暗い黄緑みのグレー SG3(1)
わずかに黄緑みがかった暗緑のグレーです。黒緑3色(4色)のダークグレーと同じ感覚で、黒緑寄りとした色彩です。

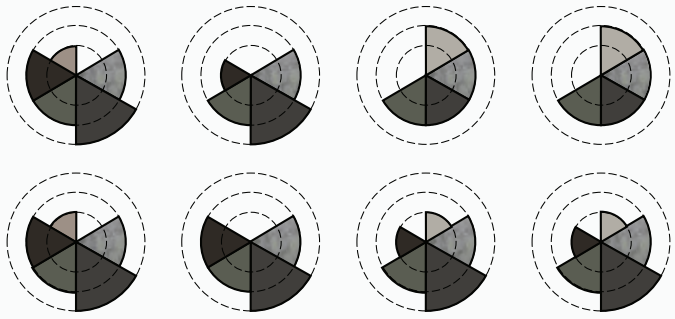
寒地土木研究所にて、色味の異なる3色による環境への馴染み具合を検証するための検討結果報告書(事例2)、事例3)の事例2)の事例3)より、黒緑よりの色彩で、緑系の色彩です。

事例3にもあるとおり、北海道の多くの環境に適合する色彩と期待していますが、やや暗みやかき過ぎるケースもあり、できれば彩度0.7~0.8程度に落としたいところです。しかしその場合は日本建築工業会の標準色に掲載がありません。



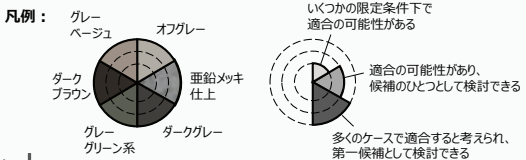
色彩選定チャート：道路環境特性 ならびに 構造物の形態 別の推奨色 (優先的に検討すべき色彩を、景観4色+緑系グレー+亜鉛メッキから示したもの)

居住地域 森林山間地域 田園丘陵地域 海岸湖沼地域



背の高い構造物
照明柱、標識柱など
= 主に空や遠景を背景としてみられる構造物
防風防雪柵、落下物防止柵など

背の低い構造物
防護柵など
= 主に地面や樹林を背景としてみられる構造物
落石防護柵など



北海道の色彩ポイントブック

北海道および積雪寒冷地の色彩検討の手引き

北海道の道路環境の特性

- ・ 広大で開放的な景観
→ 低いスカイライン
明るい空や遠景の山並みが背景
- ・ 冬期の雪景色
→ 明るい背景

北海道の環境に融和する色彩の方向性

- ・ 無彩色
 - ・ 明るめ
 - ・ 茶系よりも緑~青寄りの色相 → 色彩の候補
- ※ 彩度は1以下、あるいは2。

地域景観チームのウェブページで公開中
<https://scenic.ceri.go.jp/manual.htm>



北海道の色彩ポイントブック



ダークグレー、亜鉛めっき仕上げ
緑系のグレーなどを提案

@第1部

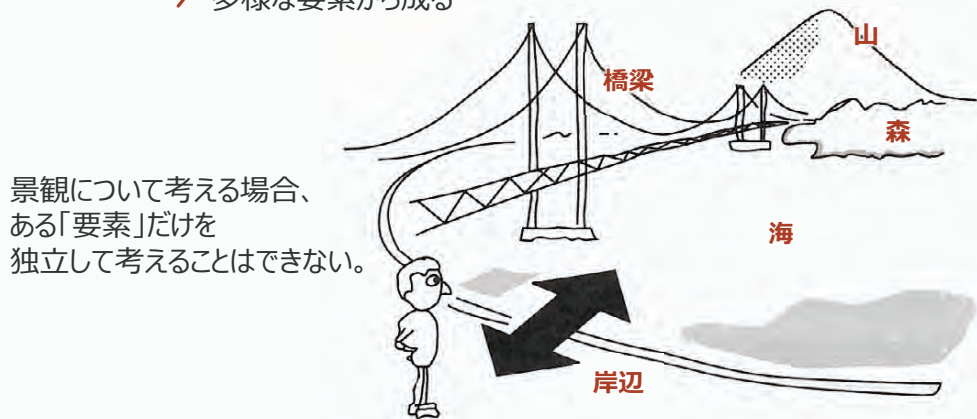
「景観」とは何か

- 「景観」ってなんのことだかわかりますか？

.. 「景観」の認識・理解のズレ = 議論の妨げにつながる

… 人間を取りまく 環境 の眺め ~ 景観工学の創始者：中村良夫先生

↳ 多様な要素から成る



景観について考える場合、ある「要素」だけを独立して考えることはできない。

… 人間を取りまく 環境 の眺め

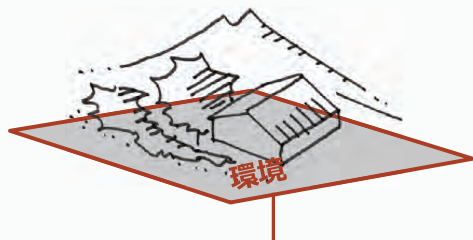
↳ 「景観」を考えるとすることは、「環境」を考えるとすること

自然環境、都市環境、市街地環境、生活環境、居住環境、子育て環境、経済環境、

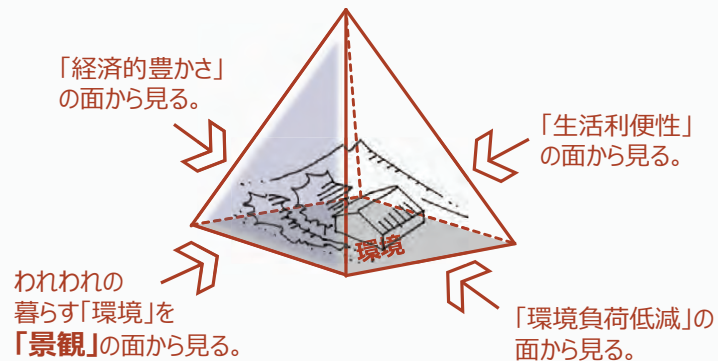


景観を改善したい場合でも「景観」だけを独立して考えることはできない

- 「環境」は、さまざまな側面から評価することができる。



自然環境、都市環境、市街地環境、生活環境、居住環境、子育て環境、経済環境、



- 「環境」は、さまざまな側面から評価することができる。
- 「景観」というのは、我々の暮らす環境を考える時のひとつの側面ではない。
- だけど人は、「景観」を通して、その地域、その場所を見る。

… 人間を取りまく 環境 の眺め

↳ 「景観」を考えるとすることは、「環境」を考えるとすること

↳ 「景観」が良い = 「環境」も良い (前提条件)



「景観」の構造 / 景観把握モデル

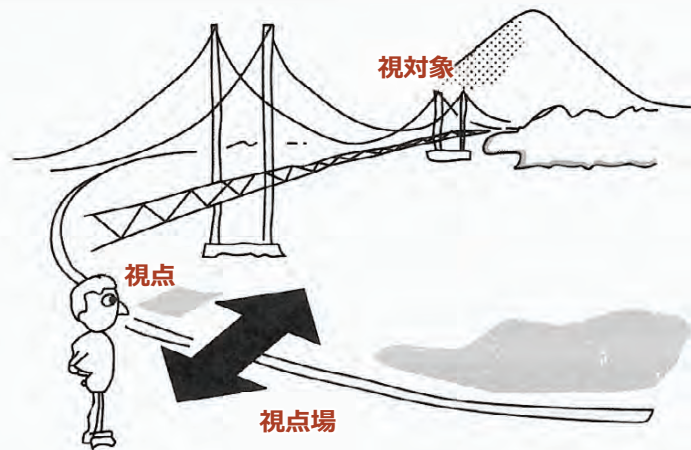
- 新体系土木工学 59 土木景観計画, 篠原修, 1982



(主たる)視対象：テレビ塔



視点場：大通公園/噴水広場



「眺めの対象」としての景観
「視対象」が議論の中心となる景観

「身を置く場所」としての景観
「視点場」が議論の中心となる景観

「景観」を切り口に
「環境」や「空間」をトータルに考える



「眺めの対象」としての景観
= 「視対象」が議論の中心となる景観

構造物・土木インフラ

場所・空間・環境

「身を置く場所」としての景観
= 「視点場」が議論の中心となる景観



「視覚像的景観」と「心像的景観」



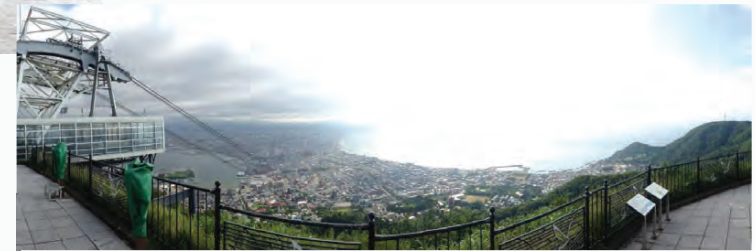
≡ 平面写真
≡ ある場所、ある時点での
ピンポイントの風景

イメージ、印象。
視覚像的景観の記憶的集合。
～ 組合せ、取舍選択、編集、...



まちの評価 ↔ まちの魅力 ↔ まちの景観 ↔ まちの記憶

例：函館



- 視点場も視対象も1つではない。
- あるいは「場」が広範な範囲に及ぶ。

「景観」とは何か

ぼくたちのミッション：

「良好な景観の形成」を通じて、「地域の魅力向上」を実現したい！
= 「景観まちづくり」

問>

景観さえ良くなれば、
地域の魅力向上は実現するのか？？

「景観」とは何か

例> まちなかウォークアブル
Park-PFI
かわまちづくり

景観？



河川空間とまち空間が融合した
賑わいある良好な空間形成
・河川空間を活かした賑わい創出



「居心地が良く
あるきたくなる」空間の創出

- ・滞在快適性等向上
- ・歩行者滞在空間の創出
- ・オープンスペース化

- ・公園を活性化する
- ・公園の機能増進
- ・公園の魅力向上
- ・賑わい増進
- ・緑豊かなまちづくり

「景観」・「環境」・「イメージ(心像)」

- 「環境」が「景観」をつくり、個々の「景観」の集合が地域の「イメージ」をつくる。
- 地域の魅力は「イメージ」で判断される。個々の「景観」(=写真風景)でも、景観を構成する個々の「要素」でもない。
- 「景観」とはトータルなものである。

→ あなたが見ている「景観」とは？ 議論したい「景観」とは？
 相手が見ている、議論したい「景観」とは？
 → 「景観」に限らず、「環境」の視点からも考える。

寒地土木研究所 月報 / 2023年8月号

解説：
 景観を通じて地域の魅力向上を考えるにあたり、改めて「景観」とは何か

- ・オールドスクールな「景観」の概念 … 眺めとしての景観
- ・「身を置く場所」としての景観のとらえ方 … 近年注目
- ・景観の3要素、「視対象」と「視点場」… 場としての景観
- ・景観の定義、景観≠環境

> 地域の魅力向上、居心地の良い空間の実現のため
 景観を切り口に、その場所・その地域の空間や環境をトータルに考える。

景観には大きく2つのとらえ方がある

設計・整備系

- ・視対象としての景観
- ・視覚像的景観

∨

・ある場所の景観をどうするか？

計画・まちづくり系

- ・視点場としての景観
- ・心像的景観

∨

・地域の魅力を高めるためにはどこに手をつければよいか？

Main

(観光地等の)
屋外公共空間の魅力向上のススメ

- 観光地等の魅力向上に寄与する屋外公共空間のパターン
- 観光地等の屋外公共空間の診断マニュアル

・ 以上のような「景観」「環境」「空間」に対するスタンスを前提に、

「観光地の魅力向上」を実現する「屋外公共空間のデザイン」とは？

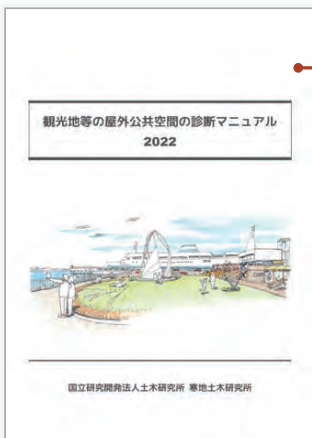
.. 「観光地の魅力」と「屋外公共空間のデザイン」の関係に関する研究



「観光地の魅力向上」を実現する
「屋外公共空間のデザイン」とは？

研究成果

観光地等の屋外公共空間の
診断マニュアル



観光地等の魅力向上に寄与する
「屋外公共空間のパターン」

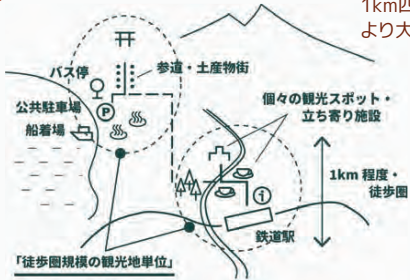
- 評価対象とする観光地のスケール区分 .. 3区分
- 全31の「パターン」
- 「パターン」と屋外公共空間の現状等の一致を確認することで、課題の抽出や改善策の検討を行う。



パタン・ランゲージ
A Pattern Language

生き生きとした都市を実現するのに
個々の建築や要素に求められる工夫を
「Pattern」として整理。

1 徒歩圏規模の観光地単位 ... 徒歩で一息で回れる観光地の範囲を、単位として捉える。
1km四方、あるいは半径500m程度。
より大きな観光地の捉え方の中に、複数設定できる場合もある。
例：横浜 > みなとみらい、関内、山手、元町・中華街・山下公園



2 個々の滞在空間
... 広場等の屋外の滞在空間



3 広域的な観光エリア
... 「富良野」「美瑛」「阿蘇」など、自動車等で周遊



↑ 稚内・利尻・礼文・留萌エリア
(北海道公式観光サイト HOKKAIDO LOVE!)

各スケール区分ごとに、屋外公共空間の整備のポイントと考えられる事項を、事例分析等を通じて抽出整理。

「観光地の魅力向上に寄与する屋外公共空間のパターン」

3スケール区分で計31項目。

スケール区分1 個別の滞在空間

立地
1. 自然と利用される場所
2. 水面や景観資源への眺望
空間構成
3. 広場の焦点
4. 多様な小空間
5. ふと立ち寄りたくなる境界部
6. 適正な密度感
7. 広場内の高低差
構成要素
8. 自由な腰掛け
9. 守ってくれるもの
10. 通路と溜まりの分離
11. 適切な植栽の配置と管理
12. 豊かな素材とディテール
13. 広場を彩るもの
空間運営
14. 目を楽ませるもの
15. 飲食機会の提供
16. にぎわいの運営

スケール区分2 徒歩圏規模の観光地単位

見て楽しめる
1. 観光地のアイデンティティとなる象徴景
2. 域内の緑・水と周囲の景観への眺望
3. 整えられた街並み
歩いて楽しめる
4. 適度な長さの散策路
5. 歩行者優先の街路空間
休める
6. 散策や滞留の拠点となる広場等
7. 道ばたの休憩空間
構成要素
8. 屋外での時間の過ごし方

スケール区分3 広域的な観光エリア

象徴景
1. 景観阻害要素
2. 風景のアクセントとなる要素
ルート上の風景体験
3. 眺望に優れた区間の延長/比率
4. 眺望を阻害する道路附属物
5. 地形に調和しない道路構造物
沿道休憩施設
6. 眺望・風景体験
7. 滞在サービス

→ 「パターン」に基づき屋外公共空間の診断を行うことで、観光地の魅力改善のポイントの抽出や検討が可能となる。

→ 観光地の魅力改善の効果的な実現に寄与

※「パターン」= C.アレグザンダーの「A Pattern Language」
で言うところの「パターン」

スケール区分2 徒歩圏規模の観光地単位

- 「パターン」の概要
- 「パターン」に基づく診断の方法
- 診断例

スケール区分2 徒歩圏規模の観光地単位

観光地等の魅力向上に寄与する屋外公共空間のパターン ... 4グループ・8項目

見て楽しめる	歩いて楽しめる	休める：くつろげる空間	過ごす：屋外で時間を過ごす
<p>1. 観光地のアイデンティティとなる象徴景 観光地の魅力やそこの観光体験を一息で伝える写真風景、すなわち観光地の「象徴景」が存在すること。象徴景は観光地での観光体験のハイライトそのものである。</p>	<p>2. 域内の緑・水と周囲の景観への眺望 自然を感じられる、心休まる環境が観光地の中にあること。このため、1つには、道ばたに高木や草花、美しい水の流れなどがあること。もう1つには、観光地の周囲に存在する山林や水面などを見通せること。</p>	<p>4. 適度な長さの散策路 興味を刺激されながら15分程度を歩くに選んだ散策ルートがあること。観光地の中核に近接し、さらに行き帰りで違うルートを行けると歩けるとなると良い。</p>	<p>6. 散策や滞留の拠点となる広場 散策や滞留の拠点となり、休憩・写真撮影などに利用できる広場等が、観光地の要所にあること。観光地のハイライトともいえる風景の中で心ゆくまでの時間を過ごすことができる。</p>
<p>3. 整えられた街並み 目をそむけなくなるもの、せつかの観光体験の邪魔をしないものが、視界に存在しないこと。街並みに統一感があること。</p>	<p>5. 歩行者優先の街路空間 車に邪魔されず、気のおもむくままに歩ける環境があること。道路の真ん中こそが一等地である。狭い歩道に追い込まれるなど避けたい。</p>	<p>7. 道ばたの休憩空間 一息つける場所が至る所にあること。特にそれが居心地に優れたものであれば、グループ旅行の際の観光のペースの遅いなども吸収できる場所となる。</p>	<p>8. 屋外での時間の過ごし方 観光客に散策や屋外での滞在を促す「何か」が提供されていること。土産物屋めぐり・食べ歩きはこの典型であるが、物販・飲食売り場となる。純粋に街並みや風景、地域ならではのものを楽しめよう、もう一工夫が欲しい。</p>

検討の経緯 ...

参考：じゃらん人気温泉地ランキング 2015
 ミシュラン・グリーンガイド Japan(2012)における★の数
 女子旅向け旅行ガイド誌「ことりっぷ」の刊行状況

評価の高い全国の6の温泉街型観光地(徒歩圏規模)



黒川(熊本県)



由布院(大分県)



有馬(兵庫県)



城崎(兵庫県)



加賀山中(石川県)



野沢(長野県)

検討の経緯 ...

“共通点”
 の抽出

- 項目の補間
- 他の観光地との照合による検証
- 体系化整理

見る→歩く→休む
 →滞在する

観光地の魅力向上に寄与する
 屋外公共空間の「6のパターン」
 (試案)

1 屋外での時間の過ごし方の提供

観光客に散策や回遊を促すものとして、観光地の側から、屋外に繰り出す理由や目的が提供されていること。
 それが広く観光客に受け入れられていること。

2 観光地のアイデンティティとなる象徴景

当該観光地に滞在することの魅力強く印象づける風景(象徴景)が存在すること。
 そのような象徴景は往々にして、当該観光地の名刺代わりとなり、観光ガイドの扉写真や観光ポスター等に広く採用されている。

3 豊かな自然と一体化した街並み

周囲に山林や農村などの豊かな自然環境があり、観光地の中核からもそれらを見通すことができること。また、街中にそれらの自然環境とつながりのある要素がちりばめられていること。
 これらにより、周囲の豊かな自然と街並みの一体感が感じられること。

4 景観に優れた適度な長さの散策路

景観に優れた環境の中をゆっくりと散策できる環境が整っていること。
 それにより、日常とは異なるその地ならではの世界観に十分に没頭できること。

5 散策や滞留の拠点となる広場等

散策や滞留の拠点となり、休憩、写真撮影などに利用できるゆとりある広場等が、観光地の中核に存在すること。
 そのような広場等では、居ながらにして、観光地の風景や風情を心ゆくまで楽しむことができる。

6 歩行者優先の街路空間

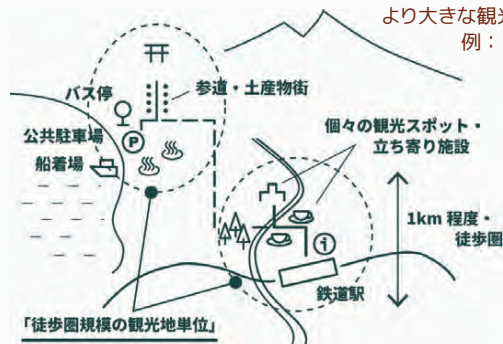
往來する自動車に観光を阻害されることのないこと。

「パターン」に基づく診断の方法

step 1 - 診断の範囲(単位)の明確化

徒歩圏規模の観光地単位

... 徒歩で一息で回れる観光地の範囲を、単位として捉える。
 1km四方、あるいは半径500m程度。
 より大きな観光地の捉え方の中に、複数設定できる場合もある。
 例：横浜 > みなとみらい、関内、山手、元町・中華街・山下公園



観光客等の観光行動の傾向や、公共交通の状況等を勘案して
 “一回”の観光地範囲を設定する。

step 1 - 診断の範囲(単位)の明確化

「徒歩圏規模の観光地単位」の設定例

